

アフリカ平和再建委員会 活動レポート

<http://www.arc-japan.org> 2019年 11月号



ルワンダ現地報告 (小峯茂嗣 ARC 事務局長)

小峯茂嗣 ARC 事務局長が教養大学異文化コミュニケーション学部で担当している「海外フィールドスタディ」で、9月に約10日間の学生引率指導をルワンダで行って来ました。ARCのルワンダでのカウンターパートの活動を訪問し、ジェノサイドとその後の復興と和解、そして「今」のルワンダを、実体験を通して学ぶプログラムです。今回の号では、最近の首都キガリの様子や、「ルワンダ子ども支援基金」の近況をご報告いたします。

首都キガリの変化

ルワンダの首都キガリは、2008年ごろから急速に変貌しています。高層ビルや大型ホテルの開発がすすみ、多くの人がスマホを持って、おしゃれなカフェではWiFiが飛ぶようになっています。ルワンダは国土が狭いわりに人口密度は高く、そしてやはり都市部の人口は多いので、首都キガリは高層化を進めてきました。し

かし自宅を高層化できない人々は、首都の周辺へと移住をしなければならぬという状況もありました。

キガリは電力供給も内戦直後と比べると安定してきたようです。内戦後の5年ほどは信号機も電気がつかないほどでした。今では夜もずいぶん明るくなっています。



左の写真は20年前のキガリの中心の商業地区、右は現在のキガリ。建物は高層化していますね。そしてカラフルになっています。20年前は路上で野菜を売る貧しい人たちも多く目にしましたが、今は取り締まりが厳しくなつてめったに見かけません。昔を知っている者から見ると少し味気ないですね… (小峯)

通信事情もずいぶんと変わりました。昔は街なかのキヨスク(売店)で電話を借りて連絡を取り合っていました(店の人が腕時計で使用時間を計って電話代を計算する)。携帯電話サービスが始まったのは2000年頃で、今ではスマホユーザーも多くいます。中国製の格安スマホは購入しやすいようです。通信会社も複数あるので、値下げ競争も活発化しているのかもしれませんが。携帯電話が普及し始めた頃は、いわゆる「ワン切り」をして相手にかけなおさせようとする(＝通話料金を節約するため)人が多くいましたが、今は定額料金サービスを使うからか、そういう人はいなくなりました。

ルワンダの人々の交通手段は、バス、タクシー、そしてバイクタクシーです。自家用車を持つ人も増えてきました。ジェノサイド直後は、国連機関や国際NGOの車両ばかりが目立っていましたから、ずいぶん変わったなと感じます。バスは、近年は中国製の大型バスが普及してきました。以前はトヨタのワンボックスカー(ハイエース)を改造して座席を設置したものにきゅうくつな思いをして乗っていましたが、ずいぶんとゆったり座れるようになりました。そして料金の支払いには、SuicaのようなICカードのシステムも導入されています。



ルワンダ子ども支援基金近況報告

このように「発展」を続けるキガリの様子から、今やルワンダは「ジェノサイドを乗り越えて発展するアフリカの奇跡」と呼ばれることもしばしばです。しかしその陰で、発展から取り残され

ている人々との貧富の格差は広がっているように見えます。2002年頃からは、都心部の再開発がすすむ陰で実は貧困層は立ち退きを迫られてきました。きらびやかなキガリの発展ぶりは、貧困層の

犠牲で成り立っている部分もあるのです。

ARCの「ルワンダ子ども支援基金」で支援している現地法人のFive Holy Pillar's Organization (FHPO)が小学校を運営している、ニヤミランゴ地区は、首都キガリ市内の一地域ですが、きらびやかな都心部とはまるで違い、道路も舗装されておらず、住宅

も昔ながらの土壁にトタン屋根のシンプルなものばかりです。この地域の貧困層の子どもたちのために、FHPOは幼稚園と小学校を併設したNature Nursery Schoolを開設しました(ARC活動レポート2019年9月号もご参照ください)。



FHPOの創設メンバーで代表のエイマブルは、貧困層の子どもたちにも教育を！という思いを持って仲間たちとFHPOを立ち上げました。ARCの「ルワンダ子ども支援基金」とは10年以上の付き合いになるイルデフォンスも彼の誘いに乗って参加しました。FHPOは貧困層の子どもたちのための学校Nature Nursery Schoolの第1校を開校しました。政府が選んだ貧困層の子どもたちも受け入れています。そして第1校の運営資金を得るために、

中流層の子どもたち向けの第2校も開講しました。両校ともニヤミランゴ地区にありますが、第1校は貧困層の住宅地域にありますが、第2校はもう少し町の方に位置しています。両校の様子は9月号でお伝えしたとおりですが、なんと第1校の敷地の外郭の塀が、地盤がゆるんだために崩れ(写真)、それが修理されるまでは、子ども達の登校は危険なので一時閉鎖をするように政府に言われたそうです。



(左)左から副代表のグスターブ(牧師さんでもあります)、小峯、イルデフォンス、エイマブル (中)崩れた塀 (右)日本の大学生と生徒たち

クラウドファンディング成立のお礼

2002年度から継続している「ルワンダ子ども支援基金」事業ですが、今年にはインターンの山下の発案で、クラウドファンディング運営会社のReadyforにプロジェクトを掲載してもらい、広く寄付を募りました。目標金額30万円と設定したところ、結果として50人の方から計311,000円のご寄付をいただき、プロジェクトは成立となりました。このうちの229,656円(=2100USドル)をFHPOに送りました(寄付総額の12%にあたる37,320円に消費税8%を加えた40,305円はReadyforへの手数料、残額の41,039

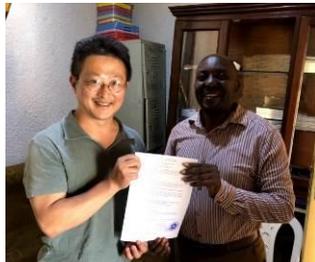
円は寄付者へのお礼の送付等の事務経費に充当)。

FHPOとは贈与の覚書を交わしまして、今回の寄付金は、生徒たちの制服、通学カバン、筆記用具、教材購入費用などに使わせていただきます。

クラウドファンディングのプロジェクトの詳細は、以下のURLからご覧になれます！

<https://readyfor.jp/projects/arcjapan-for-rwanda>

あらためまして、ご支援ありがとうございました！



アフリカ平和再建委員会

Africa Reconciliation Committee: ARC-JAPAN

〒160-0004 東京都新宿区四谷4-6-1 四谷サンハイツ511号室 Tel./FAX: 03-3351-0892

ホームページ <http://www.arc-japan.org>



ツイッター



フェイスブック

やっています アフリカの紛争と平和に関するイベントや情報の発信をしています！